

小児外科

医長：中原 康雄 スタッフ数 常勤医師 5名、レジデント 1名、非常勤医師 2名
(日本小児外科学会専門医・指導医 3名)

「概要と特徴」

小児外科は基本的に新生児から 16 歳未満の外科的疾患の治療を行う科であり、取り扱う疾患は非常に多岐にわたる。当科での研修では小児外科診療に必要な基本的な知識の学術と術前、術中、術後の管理、小児外科手術手技の習得を目標とする。

当院での小児外科では小児の麻酔研修が可能のこと、また後期研修では小児科・新生児科の研修を組み込んでいることが特徴である。取り扱っている疾患としては一般的な小児外科疾患、新生児外傷疾患に加えて、小児泌尿器科疾患が多い。総合周産期母子医療センターに指定されており、新生児外科疾患も数多く経験できる。

「初期研修の基本の方針」

- ・主要な小児外科疾患の症状、病態生理、診断・治療法について学ぶ
- ・小児外科疾患の術前・術後管理を通して、小児の全身管理について学ぶ
- ・麻酔医として手術に参加し、小児の気道確保・挿管手技、および術中の呼吸循環管理について学ぶ
- ・助手として手術に参加し、小児外科手術の基本手技について学ぶ

「研修予定表」

行 事	曜 日
病棟回診	毎日
手術	月・水・金曜日
検査(造影、シンチ)	木曜日
抄読会	木曜日
小児系合同カンファレンス	木曜日
入院症例・手術症例検討会	木曜日
他院小児外科との合同カンファレンス	第3月曜日
勉強会	火曜日
画像カンファレンス	月曜日(第2・4週)

「指導体制」

小児外科指導医の監督指導の下に、スタッフと、後期研修医による複数担当医制で指導にあたる。毎日の回診時に小児外科全員で全患者の情報を共有し、治療方針などに関し綿密なディスカッションをする。

「経験可能な症例や手技」

年間の診療実績は入院総数 約 800 例、手術総数 500-600 例 新生児手術 20-30 例

- ・ 主要な小児外科疾患(単径ヘルニア、虫垂炎、腸重積、臍ヘルニア、停留精巣など)の症状、病態生理、診断・治療法の理解
- ・ 小児の救急疾患の診断、治療法の習得
- ・ 小児麻酔(3ヶ月で麻酔約 150 例、挿管約 90 例)を通して小児の気道確保・挿管手技・術中管理を習得
- ・ 小児外科で施行される諸検査の理解
 - 1)超音波検査、CT検査
 - 2)X 線透視(消化管造影・排尿時膀胱尿道造影)
 - 3)核医学検査(腎シンチ・レノグラム・肝胆道シンチ)
 - 4)24 時間 pH モニタリング(胃食道逆流症の検査)
- ・ 小児の中心静脈管理(小児がんに対する化学療法を含む)

「後期研修について」

外科学会専門医を獲得し、将来的には小児外科専門医や小児泌尿器科認定医を取得することを目標に研修を行う。

小児外科疾患の術前・術後管理、小児麻酔に加え、手術時に執刀医・助手を経験し手術手技の研鑽を積む。個々の技量にもよるが、鼠径ヘルニア、虫垂炎手術にはじまり、新生児外科手術を含む小児外科メジャー手術の執刀も経験できる。

後期研修終了後は、引き続き当科で研鑽を積むことも可能であり、また中国四国地方には当科と連携のある施設が複数有り、それらの施設をローテートし、小児外科医として研鑽を積むことが可能。

当科での研修によって得られた知識・経験を生かし現在小児科診療や重症心身障害児医療の世界で活躍するOBも多数輩出している